

暑中お見舞い申し上げます。



7月第3月曜日は海の日。今年は梅雨明け間近というより、“しとしと雨が美しい日”が殆どないままに、本格的な夏がこようとしている。そういえば、梅雨時にきれいな紫陽花を目にすることも少なかった。

その不満を解消する、紫陽花のレイ作り。

ハワイのレイについて、色々学んでいるので、伝統に則って、花は必要な分だけを切り、自然に感謝して、作り始めます。

花のレイは、茎や長い葉や、ラフィアなどで花を編み込むほかに、紐や糸を通したり、編んだりする。

花の中央に糸を通すときには12インチの針が使われるけど、私は針も糸も、本格的なものを持っていないので、もめん針と絹糸を代用。絹糸はグレー。花びらを平らに重ねたいときには、しべの真ん中に糸を通す。(右下の写真)

このときに糸を引く方向を間違えると、花びらが裂けてしまうので注意。それから、テグスを使うと花びらが切れやすいので、絹糸や麻糸のほうがいい。



中央に糸を通すより、やりやすいのは、花を半分にたたんだ状態で糸を通すやり方(上左の写真)。

ハワイで“葉”を使うレイのときに、葉を半分にたたんで糸を通すので、これを応用した。この方法は、花びらが裂けてしまうことがないので、作りやすいし、厚みが出るので、花数が足りないときにも使えます。



## ワタシ的なファッションドール...ブライス

金髪のアンニュイな目つきの女の子はブライス。1972年、アメリカで販売されたときには、“目が怖い”などと不評で、約1年で販売終了、そのまま忘れられていたのが、写真集「this is blythe」の発売をきっかけに人気化し、2001年に復刻版を発売して以来、人気が高まっているタカラの着せ替え人形。いまやヴィンテージはプレミア価格、復刻版でも入手しにくく、オークション販売されているもの。7月からは海洋堂の食玩版「ブライスベル」も発売された。人気の理由は、おしゃれ度の高さ！ブライスのキャラやストーリーに合わせたファッションをワタシの身代わりに楽しむもの？

以前“怖い”と言われた目だが、後頭部にあるヒモの操作で、瞳色を変えられる。(緑、オレンジ、青、ピンクの4色)



ヴィンテージ、リカボディ、エクセレントボディなどと、販売時期によって、ボディ、目、髪、メイクに違いがあるが、すごいことになっているのが、この子たちの身につけるもの。ブランド服、バッグ、ハイヒール、ウィッグ、コート、浴衣、下駄、ペット...さまざまな持ち物を作る人たちが、部外者には眩暈すら感じさせる、熱い世界を繰り広げる。

例えば“セレブ”、私にはなれなくても、ブライスだったらなれる。そんな夢を盛り込んだワタシのカスタマイズが可能なのが、とても今なブライスだ。

## 先端オフィスOLのお昼ごはん

“セレブ”といえ、ampmが<イタリア料理の芸術、世界のセレブリティが愛する店、サバティーニ・ディ・フィレンツェの味をお届けします>と、6月から本格イタリアン・メニューの販売を始めた。ショートパスタのジェノバ風390円、エビフライのフォカッチャサンド290円、鶏モモ肉の白ワイン煮込み(ライスつき)395円などの低価格フードに加えて、キャラメルポワール320円、濃厚本格ティラミス400円など高め価格のデザートとは、女性を意識したメニューと見える。

OL層の昼ごはん、特に新しい高層オフィスビルに勤めるOLには、“昼をどこで食べる？”は悩みだったところに、ひとりでも、おかしく見えない昼ごはんとして、ちょうど嵌ったのが、「スープストックトキョー」「和食えん」あたり。でも、高くつくのが玉にキズだったので、今度は、オフィスで食べても、おかしく見えない昼ごはんとして、サバティーニとのコラボは価値があるかもしれない。

“セレブ”は、celebrityの略。海外の有名女優やスーパーモデルをセレブと呼び始めたのが90年代、いまは“リッチ”の言い換えのようにってきた。用法としては、「誰もがうらやむセレブな生活」などと女性誌の広告に使われたりする。